



茶室「暮雪庵」  
松坂屋創業家の伊藤家ゆかりの茶室。この茶室を使用して「暮雪庵茶会」が開催されています。



元屋敷窯からの出土品  
約400年前、美濃桃山陶の名品を生産した、当時の陶工たちの技術が光る品々です。



元屋敷窯（連房式登窯）  
美濃地域最古の連房式登窯です。1958年に発掘されたもので、現在も当時の姿を留めています。



ハナショウブ(イメージ)



休憩所  
今回の拡張で、休憩所とトイレを設けました。公園周辺を回りながらゆったりと過ごすことができます。

今から400年前の桃山時代、ここ美濃の地域は日本最大の焼き物の産地でした。「大窯」・「連房式登窯」と呼ばれる地上式の窯は、当時の技術の粋を極めたもので、私たちの先人がここで生産し

### 織部の里公園とは

公園内にある「元屋敷窯」は、美濃窯最古の連房式登窯で、今も当時の様子をよく留めています。その重要性からこの一帯は、昭和42年に国の史跡に指定されました。織部の里公園は、この元屋敷窯

た陶器は、全国に向けて出荷されました。

## 美濃桃山陶

歩いて 見て 触れる

# 織部の里

ORIBE no SATO

## 6月10日 拡張オープン

問い合わせ 文化振興課 (内線556)



## 記念イベント

■ 記念式典  
6月10日(金)

■ 記念茶会  
6月12日(日) 午前10時～午後3時  
野だて 一服300円  
(協力：土岐市茶華道連盟)



▲ 織部茶会(野だて)の様子

周辺を「歩く」「見る」「触れる」ことで美濃桃山陶への理解を深め、楽しんでいただくため、平成15年4月にオープンした歴史公園です。現在、公園内には、元屋敷窯のほか復元した3基の大窯や、作陶体験・絵付け体験ができる「創陶園」、松坂屋の創業家である伊藤家の別荘「揚輝荘」から移築された茶室「暮雪庵」があり、美濃焼文化に触れることのできる拠点となっています。

### 田園風景に溶け込むように

市では、織部の里公園をより魅

力あるものにするため、公園の南側を整備しました。アヤメ園やシヨウブ園の整備をはじめ、ヤマモミジやドウダンツツジなどを植栽することで、今までの公園と周辺の田園風景と併せて、四季を通じて往時の雰囲気を楽しんでいただけるものとなっています。

また、休憩所とトイレを設けることで、公園周辺の施設を回りながら、ゆっくりと過ごすことができます。

窯跡を取り囲む水田と緑。公園を彩る花々。皆さんも、織部の里公園で、土岐市の原風景を感じてみませんか。

## 美濃焼の歴史

美濃焼の歴史は古く、平安時代中期には、『延喜式』に「美濃の国を陶器調貢国に定め」と記されています。その後、安土桃山時代から江戸時代初頭にかけて花開いた桃山文化の時代には、志野・織部・黄瀬戸といった、日本を代表する器が生み出されました。

これらを美濃桃山陶と呼び、市内各地の古窯跡では、現在も発掘調査が続けられています。

元屋敷窯は美濃窯最古の連房式登窯で、全長約24・7メートル、幅2・2メートル、焼成室は14室あります。1958年に名古屋大学考古学研究所により発掘され、その重要性が広く知れ渡るきっかけとなりました。

17世紀初頭、

陶相加藤景延が九州唐津の浪人に出会ったことをきっかけに、唐津で窯の形や焼き方を習得し、この地に築窯したと伝えられています。



### 元屋敷窯

1958年(昭和33年)発掘時の様子

東には焼成室が単室の大窯が3つあり、16世紀末から17世紀初頭には、瀬戸黒、黄瀬戸、志野など美濃桃山陶を代表する製品が生産されました。

元屋敷窯で導入した連房式登窯は、焼成室を幾つも階段状に連ねることで、製品の量産化と生産効率の向上が図られています。この窯で、日本における焼き物の常識を覆す織部製品が数多く生み出され、一世を風靡したのです。



旧制中学時代から考古学に興味を持つ。昭和45年の中央自動車道建設に伴う事前発掘調査を皮切りに、市内外の古窯跡部の発掘調査と保護活動に尽力。市文化財審議会委員、市埋蔵文化財センター理事などを歴任し、平成21年には、本市で初めて文化庁長官表彰を受賞された。現在、市文化財審議会会長。79歳。

通っていた旧制中学の校庭には古墳があり、運動場からは石器も見つかりました。考古学に興味があったので、友人と郷土研究部を結成し、昼休みや放課後に遺物の採集活動をしていました。元屋敷窯の踏査の機会に恵まれた時、黄瀬戸の竹節の蓋置が発掘されたのを見て「良いものだなあ」と胸をときめかせたことを覚えています。当時の美術の教師に「評論家になりなさい。物を見て人間の成り立ちを評価することも大切だ」と言われたことが、発掘調査に関わる影響になったのかもしれない。

卒業後は、家業に忙しく過ごしていましたが、昭和45年に始まった中央自動車道建設に伴い、友人から古窯跡の発掘調査にボランティアで参加しないかと声を掛けられ、日曜日ごとに調査に出掛けました。

以来、発掘調査では、学問的な視点のみでなく、窯を築く技術や方法、製品を焼成する方法など、製陶業の経験

## 先人に思いをはせる ロマンこそ発掘調査の魅力

今井 静夫さん(土岐津町)

を生かした、職業的な視点から古窯の様子を見ていたことが、過去の窯業生産を研究する上で役立つたのかもしれない。

平成8年の多治見市北小木古窯跡群の発掘調査まで、各地の古窯跡を多数調査しました。出土品は鑑賞的に優れた物ばかりではありませんでしたが、生活の道具として歴史的な価値があり、時代ごと、地域ごとに特色があることが分かるなど、新しい発見にワクワクしました。その中でも、元屋敷陶器窯跡からの出土品は、いわゆる桃山陶として、日本陶磁史上最高のものだったと思います。

製陶業を閉じた後、窯を興し陶芸活動に入りました。優れた出土品を参考に作陶をしたこともありましたが、時代の流れの中に自分をさらし、その時々の新しさを取り入れないと伝統の美は伝承できないと、このごろになって思うようになりました。

古窯跡の発掘調査からは、土地の状況や土、水、燃料の調達方法など、先人の知恵や技術を知ることが出来ます。調査を通じて、当時の生活様式や時代背景などにロマンを持つことが、発掘調査の魅力だと思います。

現在は、過去の研究の報告書などの整備が進んでいますが、これから調査に携わる方には、新しい視点で当時の生活の様子を復元するなど、ロマンを持って勉強して欲しいですね。



### 土岐市美濃焼伝統産業会館

織部の里公園から約4km



美濃焼の伝統的な技術を次世代へ継承し、美濃焼産業全般が発展することを目的として作られた施設です。

館内には、美濃焼の伝統的技術に関する資料や陶磁器製品を展示し、広く美濃焼の魅力を紹介しています。

また、自由に作陶や絵付けができる体験コーナーもあり、美濃焼を肌で体験することができます。

また、自由に作陶や絵付けができる体験コーナーもあり、美濃焼を肌で体験することができます。

### 土岐市美濃陶磁歴史館

織部の里公園から徒歩約5分

美濃焼の歴史を紹介する資料館です。元屋敷陶器窯跡から出土した志野や織部



など美濃桃山陶を中心に展示しています。

また、須恵器から磁器までの製品や、陶芸家の作品をさまざまな観点から紹介する企画展を開催しています。ほかに、展示に合わせた講演会や小学生を対象とした体験講座も行っています。

## 歴史散歩道 織部の里公園周辺の見所スポット



### 隠居山遺跡

織部の里公園から徒歩約13分



隠居山には7世紀に須恵器を焼成した市内最古の窯跡をはじめ、16世紀後期から17世紀中期にわたる美濃焼の変遷を伝える大窯・登窯跡が集中しています。

また、この山は太古の昔、海であったところに堆積した地層できているため、貝などの化石を含んでいます。昭和25年には、約1700万年前の哺乳動物「パレオパラドキシア・タバタイ」の完全骨格が発見されました。

### 乙塚古墳附段尻巻古墳(国指定史跡)

織部の里公園から徒歩約10分



乙塚古墳は市内最大の古墳で、一辺27m、高さ6mの方墳です。石室には大型の石材が用いられており、その大きさに圧倒されます。築造は7世紀前葉から中葉と考えられます。

段尻巻古墳は乙塚古墳の北西約50mの場所にあり、直径約20m、高さ4.1mの円墳です。石室は乙塚古墳と同じ横穴式石室ですが、規模は小さく、築造は7世紀前葉と考えられます。

